
8. <水球陣>東日本リーグ第2戦

H26.3.1 対プロミネンス @慶應日吉プール

東大 2 5 1 0 計8

プロミネンス 4 2 1 2 計9

得点者：桐生(1)、浪間(3)、池亀(1)、石田(1)、梶原(2)

一部残留を目標として挑んだ東日本リーグであったが、初戦の明治戦を落としてしまった。上位リーグ進出のためにはこの一戦だけは落としてはならない。全力で勝ちに行こう。

第1ピリオド

開始早々浪間がやや強引なバックシュートを決め、東大が先制する。しかしながら毎年東大が苦戦するプロミネンス、東大のプレスが甘くなったところからハンツーを決められ、同点とされる。石田の退水を守り切った東大は梶原の仕掛けから桐生がハンツーを決め、再び1点リード。その後カウンターからの失点で流れを悪くした東大はさらに2点を追加され、結局2点ビハインドで第1ピリオドを終える。

第2ピリオド

前半戦を最低でも追いついて終えたい東大は、初回の攻撃でサイドからのパスインを浪間が綺麗に捌き得点する。すぐに取り返されるも、梶原がカットインからのハンツーで得点し、続いて居残りからの1-0を落ち着いて決める。その後カバーミスにより1点を失うが池亀がそり返りながらのループを決め、浪間がハンツーを決め、結局このピリオドを5-2で終える。1点リードの展開だが、3ピリ以降で油断しては勝ち切ることはできない。落ち着いてリードを広げていきたいところだ。

第3ピリオド

第2ピリオドが相手の退水中に終了したため、このピリオドでは最初のセンターボールが極めて重要になる。エース浪間が惜しくもこれを逃し、逆に桐生が退水をくらってしまう。このピンチは守り切ったものの、続いて藤目が退水し、失点してしまう。悪い流れを断ち

切りたい東大は、梶原や池亀の仕掛けなどで何度かチャンスを作るも得点には至らず、ついにこのピリオド残り10秒となった時、浪間からのパスを受け取った石田がミドルシュートを決める。そのまま第3ピリオドが終了し、1点リードで最終ピリオドを迎えることとなった。

第4ピリオド

4ピリに強いプロミネンス、やはり開始早々その真価を発揮してきた。鋭いカウンターから梶原の退水を奪ってくる。ここを何とかしのぎ、その後も疋田のファインセーブによって辛うじて1点差をキープし続ける東大であったが、残り2分30秒、悪夢のような時間帯が訪れる。小池がフリースロー妨害で退水し、失点、さらに1投目のパスカットを狙った小池が回されて退水、そのままゴールまで運ばれついに逆転を許す。残りは1分半、先ほど得点した石田を再び起用し東大は最後のチャンスに希をつなぐ。しかし東大は得点することができず無情にも試合終了の笛となる。

手に汗握る第4ピリオドの試合展開、といえば聞こえがいいが、この試合はディフェンスミスによる失点が多く、結果内容ともに満足いくものではなかった。新ルールに対応したディフェンスと浪間への下がり対策をして次の試合に臨みたい。最後に監督を務めて下さった三宅さん、観戦にいらして下さった岩村さん、堀江さん、有吉さんに心からお礼申し上げます。

(文責 石田慶太)
